

口は健康のもと Vol.184

お父さんの匂い 最近“臭い”に変化

昭和の時代、「タバコ」「アルコール」「ポマード」は「頼もしいお父さん」の匂いとして好意的に解釈されました。ところが最近では、「オヤジ臭」とか「加齢臭」という言葉に変わりました。どうやら、「におい」は「匂い」から「臭い」に変わったようです。

「オヤジ臭」や「加齢臭」の原因が不飽和脂肪酸のノネナールであると資生堂の研究者によって発表されました。同様にジアセチルやペラルゴン酸といった物質レベルで科学されるようになり、消臭剤の製品市場は5000億円以上と試算されています。

家族から口臭を指摘されたことを主訴に大学病院に来院される患者さんがいます。お子さんやお孫さんからの指摘が多いようです。口臭の原因は主にお口の中の細菌が産生する硫化性化合物（メチルメルカプタン、ジメチルサルファイド、硫化水素）です。これらの物質は環境保護法で明記されている「悪臭」の中で上位にランクされています。非常に不快な臭いです。

口臭はう蝕や歯周病あるいは全身疾患の治療により改善します。お孫さんと遊ぶ高齢者は、嫌われたくないのか、非常に熱心に治療に通われますので、プラークコントロールのソムリエにとっても仕事が楽しくなります。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 高橋 慶壮

